

定理 1.25 A 上の同値関係 R の商集合 A/R は A の一つの分割である。

【証明】

- (1) すべての $[a]_R \in A/R$ に対して, $[a]_R \neq \emptyset$ 。
(2) $[a]_R, [b]_R \in A/R$ とすると, $[a]_R \neq [b]_R$ の場合, もし $[a]_R \cap [b]_R \neq \emptyset$ とすると,
 $c \in [a]_R \cap [b]_R$ となる c が存在する。よって, $\langle a, c \rangle \in R$ かつ $\langle b, c \rangle \in R$ 。

定理 1.7.1 より, $[a]_R = [b]_R$ となり, $[a]_R \neq [b]_R$ に矛盾する。ゆえに,
 $[a]_R \cap [b]_R = \emptyset$ 。

- (3) 商集合 A/R のすべての同値類の和集合は A である。すなわち,
 $A = \bigcup_{a \in A} [a]_R$ である。

ゆえに, 商集合 A/R は A の一つの分割である。